

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分なりの考えをもち、表現することができる児童を育成する授業の実践
- 学び合う学習(主にペア学習・グループ学習)を一層取り入れた授業の実践
- タブレット端末等を活かした「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践

学力向上推進委員会構成

- 学力向上推進員** 和泉享平⑥
- 委員**
 校長: 木屋村雅信 教頭: 後藤由美
 教務主任: 森本健太 研修主任: 村松直子
 学年主任: 谷 佳奈江⑤, 笠原貴子④, 松家義人③
 田中ひろみ②, 植木朋子①
 特別支援教育コーディネーター: 岡田淳子(特支)

校長

木屋村 雅信

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【取組状況の把握について】

教員の取組の振り返りや学校評価(教員・児童・保護者), 研究授業, 管理職の授業参観等により取組状況を把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた課題に取り組む児童が多く、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いてきている。 ●学習内容と既習事項を関連付けて課題を解決していく力が十分に身に付いていない児童がいる。	・教科の本質を踏まえ授業のめあてを自分なりに理解し、身に付けた知識・技能を適切に動かせることができる。 ・既習事項や振り返り学習を活用して、新たな課題をスムーズに解決していくことができる。	・自分なりの考えをもたせるために、図表や具体物、デジタル教科書やタブレットを積極的に活用する。 ・授業では、「振り返り」の場を設定できるよう、授業展開を工夫したり、成果や課題を把握しやすくするために書く視点を示したりする。 ・新たな学習課題を解決していくための手立てとして、児童のノートの振り返りや既習事項を掲示したり、ICT機器を効果的に活用したりする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の発表をよく聞いたり、自分の考えや意見を書いたりできる児童がふえてきている。 ●目的や意図に応じて友達の発表を聞いたり、自分の考えを明確にして伝えたりすることに課題がある。	・聞き方「あいうえお」が身に付いている。 ・発表者の思いや考えを、自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聞くことができる。 ・自分の考えの根拠や理由を明らかにしながら相手に分かるように表現することができる。	・考えや思いを発表するにあたり、話し方や聞き方のポイントを明確に示す。(掲示物やカードの作成) ・考えを「広げる」「深める」ための、問い返しを授業に取り入れる。 ・「学び合うための話し方」の定着に向けて、国語科の話し合い活動を中心とした対話的な学習場面を積極的に取り入れる。 ・タブレットやホワイトボードを効果的に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題や家庭学習にまじめに取り組む児童がふえてきている。 ●難しい課題や時間のかかる課題に、最後まで粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。また、積極的に発表したり意見を交流したりすることに課題がある。	・学習課題や自主学習に進んで取り組むことができる。 ・自己の学びを振り返り、次の学びに対する意欲をもつとともに、積極的に話し合い活動を進めることができる。	・「家庭学習の手引き」を見直し、基本問題、活用問題等、各学年で協議し、取り組む意欲が持続する課題を設定する。 ・自力で解決した達成感を実感させるために、板書やワークシート等を工夫する。 ・タブレットやホワイトボードを効果的に活用し、話し合い活動や調べ学習に対して主体的に取り組めるようにする。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

